



【特別養護老人ホーム清豊苑】
機能訓練の効果を高め
転倒骨折による入院件数を0へ



地域にえがおを

豊中まつりへ看護師を派遣

豊中市とウエルグループが締結した包括連携協定に基づき、10月18日・19日に開催された豊中まつりに、訪問看護サービスを提供する株式会社ソルアとウエル清光会から救護班として看護師を派遣しました。まつりには延べ156,000人が来場し、救護所では2日間で2名のケガ等に対応。認知症の方の保護も行い、介護施設の看護師としての知見を活かすことができました。

ウエルグループでは、2025年1月の協定締結以来さまざまな取り組みを進めています。直近では、難病患者様への停電時の非常用電源の充電や、災害時の避難困難者の受け入れなどの協力体制も整備しました。地域の方々の安全・安心な暮らしのため、これからも地域に貢献してまいります。



豊中まつりの様子。救護所では、2名の看護師が交代で待機しました。



デイサービスセンター宝塚清光苑

■兵庫県宝塚市仁川団地4-15 ■0798-51-5510 ■定員:30名



身体と心の元気をサポート。地域の方々が頼れるよりどころに

理学療法士・作業療法士による機能訓練



宝塚清光苑のデイサービスには、理学療法士と作業療法士が常駐し、利用者様お一人おひとりに適したメニューで個別に機能訓練を実施しています。リハ

ビリールームは、あえてデイルームから離れた場所に設け、並行棒やエアロバイクなど複数の機械を配備。施設の外を散歩することもあります。リハビリルームまで歩くこと自体も効果的な運動になっています。

また、隣接する仁川ウエル保育園の園庭に面しているため、園児が元気に遊ぶ姿を窓越しに眺められることも利用者様の運動意欲を高めています。毎回の機能訓練によって身体機能を維持できている方が多く、100歳を超える利用者様もご自身の足で歩いていらっしゃいます。

心を穏やかにするレクリエーション

レクリエーションが多彩な点も特徴の一つです。貼り絵やフラワーアレンジメントなどの創作活動に加え、職員が自らの旅行体験を語る「日本旅倶楽部」は、毎回利用者様から好評をいただいています。旅先で撮影した写真をモニターに映し出しながらその地の歴史や名物などをご紹介すると、以前の旅行の思い出が呼び覚まされるのか、利用者様からも感想や質問がたくさん寄せられます。

また、月に一度は保育園の園児たちが来訪し、デイルームで歌を披露してくれます。一年を通してどんどん成長していく園児の姿に「上手になった」と目を細める方、ご自身のお子様の幼少期を思い出して涙される方など、皆さんが園児との交流を喜ばれ、それが心の安定につながっています。



地域を支える社会資源として

福祉施設は地域を支える社会資源でなければならない。私たちはそう考えています。そのため、地域の方々にもご参加いただける秋祭りの開催や保育園との相互協力など、日頃から地域に密着した取り組みを重視しています。

特に宝塚清光苑は、在宅での生活が困難になった際にグループホームや特別養護老人ホームなどへシフトできる複合型介護施設です。そのため、介護サービスの入り口であるデイサービスが安心できる「よりどころ」であることが大切です。デイサービスをきっかけに、利用者様にもご家族にも「ここなら最期まで見てもらえる」と安心・信頼いただける施設を目指しています。



セラピー犬見習いの「ケリー」もお迎えます!

ウエルグループ | 入所系・通所系サービスのご相談は、下記の事業所へ直接ご連絡ください。QRコードから、それぞれの連絡先をご覧ください。

豊中市

- ① 清豊苑 [特]
- ② 利倉清豊苑 [地/テ/グ/小/定]
- ③ 美豊苑 [特/ケ]
- ④ 刀根山美豊苑 [地/テ]
- ⑤ 輝豊苑 [テ/グ]
- ⑥ ウエルケアプランセンター

- ⑦ ウェリスト [小/テ]
- ⑧ 社会福祉法人香聖会 宙(すはる)豊中 [地/グ/小]
- ⑨ 庵とよなか庄本 [有]
- ⑩ エターナル緑地 [有]

宝塚市

- ⑪ 宝塚清光苑 [特/テ/グ/小/ケ/定]
- 芦屋市
- ⑫ 陽光苑 [地/テ/グ]
- 西宮市
- ⑬ パセム西宮 [有]
- ⑭ ケアプランセンター西宮清光苑



[特]特別養護老人ホーム [地]地域密着型特別養護老人ホーム [テ]デイサービス [グ]グループホーム
[小]小規模多機能型居宅介護施設 [ケ]ケアプランセンター [有]有料老人ホーム [定]定期巡回サービス

ウエルの
今を
深掘り!



機能訓練指導員
長束 智司



機能訓練指導員
小橋 美紅



機能訓練指導員
清 愛加



機能訓練指導員
桐本 良穂

【特別養護老人ホーム清豊苑】

機能訓練の効果を高め 転倒骨折による入院件数を0へ

ウエル清光会では、常にケア品質の向上や業務改善に取り組んでおり、年に一度その活動内容を発表する「ウエル甲子園」を開催しています。

今回は、この発表において「骨折による入院数の減少」という結果を打ち出し金賞を受賞した、特別養護老人ホーム清豊苑の機能訓練指導員の取り組みをご紹介します。



取り組み内容

■背景

入居者様の入院の原因を調査した結果、「骨折」が2番目に多いことが分かりました。特別養護老人ホーム清豊苑では、ご自身で歩行、または車椅子で自走できる入居者様が多いため、生活の中で転倒事故が発生していたことが理由です。

入院は入居者様のADLやQOLの低下を招き、介護負担の増加にもつながります。そこで、機能訓練の観点から骨折とその原因となる転倒を防ぐ取り組みに着手しました。

■課題

機能訓練指導員は、転倒事故が発生すると報告の内容から原因を分析し対策を講じますが、分析結果が担当者の主観や熟練度に左右される傾向がありました。また、機能訓練の個別化が不十分で、運動による負荷量が足りていないケースもありました。

■目標

- ① 転倒数を減らし、骨折による入院件数を0にする。
- ② 転倒数を月20件(入居者様数144名)以下にする。
- ③ 体力測定による身体機能の数値化を全体の30%以上の入居者様に実施する。

■実施した対策

- ① 転倒による骨折経験のある方や転倒リスクの高い入居者様を抽出する。
 - ・自立歩行が可能な方
 - ・杖や歩行器で移動されている方
 - ・移乗動作はできても、認知症等により危険予測が難しい方
- ② 抽出したハイリスクな入居者様に対して、月に一度の体力測定を実施する。
 - ・5m歩行テスト: 5mの距離を何秒で歩けるか、歩行速度を測定
 - ・30秒立ち上がりテスト: 30秒間でイスから立ち上がることができる回数を測定
- ③ テスト結果に応じて訓練内容を見直す。
 - ・介入頻度を高め、運動量をアップ
 - ・バランス能力を鍛えるトレーニングを追加
 - ・立位でのトレーニングの増加
 - ・歩行練習の距離延長

■結果

骨折による入院数0件を達成!
(2024年8月~2025年7月の取り組み期間内)
取り組み対象者のみの転倒数は11件から5件に半減。



数値化によって 正確に身体機能を把握



Q: 目標を達成できた要因は?

桐本: テストによって身体機能を数値化したことで、指導員の主観や熟練度によらず、転倒リスクを客観的に分析できるようになったことは大きな変化でした。また、年間を通じて継続的にテストを実施することで、「3ヶ

月前と比べて歩行速度が落ちてきた」「立ち上がりテストの回数が減った」など、身体機能の変化を捉えることができ、早期に対策を打てました。

もう一つ、留意したことがテスト時の体調です。バイタル等に異常がないかを確認し、毎回同じ要件のもとで測定することで、正確な数値を把握できるように努めました。その結果、入居者様お一人おひとりに適切な

訓練計画を立てられたことが成果につながったと考えています。

Q: 具体的な成果を教えてください。

小橋: まず、体力測定の結果が向上しました。5m歩行テストでは64%、30秒立ち上がりテストでは82%の入居者様が記録をアップされ、転倒リスクの低下につながっています。例えば、80代の男性入居者様は、5m歩行のスピードが半年間で27.5秒から9.



ご家族にも「こんなに歩けるようになったのね」と喜ばれています。いつまでもご自分の足で元気に歩けることが理想ですが、たとえ車椅子が必要になっても、少しでも「今できること」を長く続けていけるように、一緒に楽しくリハビリをしたいと思っています(桐本)

取り組みを終えて

4秒に改善しました。立ち上がりテストでは、当初は介助を必要とされていましたが、現在は介助なしでも8回の記録を達成されています。

清: 目に見える効果だけでなく、無形の効果も現れています。例えば、テスト中の動作を観察することで、「方向転換時にバランスを崩しやすい」といった傾向が見え、日常生活で注意して見守るべき場面が分かるようになりました。介護士と情報共有することで、適切な介助量の助言や日常生活での課題の発見も

でき、ケア品質の向上につながったと考えています。また、ご家族やケアマネジャーの方にも、根拠に基づいたご説明ができるようになりました。

小橋: テストの数字が上がると、入居者様も「次も頑張ろう」とモチベーションが上がります。特に認知症の方は気持ちがふさいでし

まう傾向にあるので、こうした前向きな気持ちになること自体がとても良い傾向だと考えています。

認知面を合わせて取り組みを継続し、 転倒ゼロへ

Q: 取り組みを通じて見えた新たな課題はありますか?

清: 認知面で危険予測が難しい方の転倒が比較的多いことが分かりました。例えば、記憶力が低下している方であれば、注意を促しても車椅子のブレーキをかけることを忘れてしまい、移乗時に転倒してしまう恐れがあります。そこで、M^{*}MSEを活用しながら認知機能と身体機能を合わせて評価し、リスクの高い方や場面を絞り込んで転倒防止の強化に向けた取り組みを始めました。

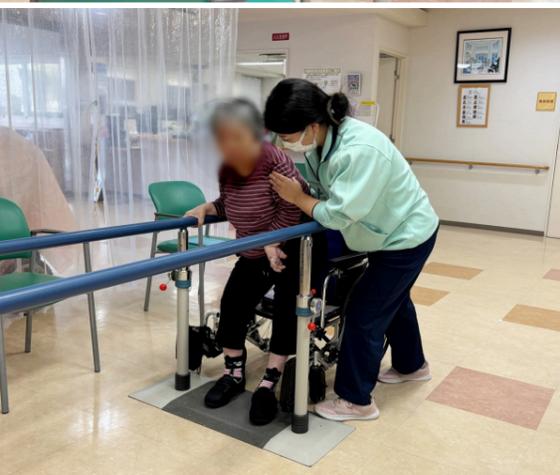
Q: 今後の目標は?

桐本: 機能訓練指導員を配置していない施設でも入居者様の身体機能の維持・向上を図るために、私たちが実施している、認知面と身体面をかけた合わせた評価の方法を共有したいと考えています。リスクの高い方だけでなく、全ての入居者様に対して適切な対応ができるよう取り組みを続け、「全員介入」を目指します。

*MSE: 認知能力を短時間で客観的に評価するスクリーニングテスト



取り組み期間中の骨折による入院は0件になったものの、転倒がゼロになったわけではなく、課題は残されています。今後も入居者様のために、テストを実施し訓練内容を向上させ続け、「ここに入居したから元気になった」と思っただけの施設を目指します(小橋)



テストの結果に応じて個別メニューで機能訓練を実施。



運動負荷を上げ、筋力アップを目指す。